

さなお堂には歯痛地蔵と呼ぶ
石地蔵が祀られている。医者は
庶民から縁遠く、歯の医者など
なかつた時代、歯痛は神仏に祈る
しかなかつた。



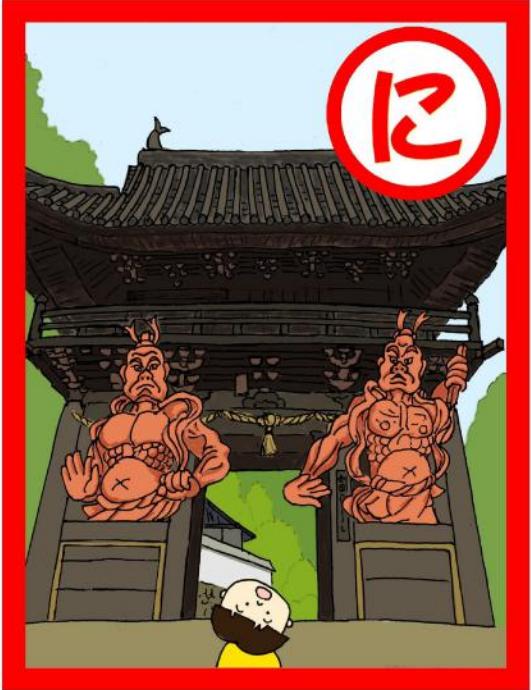
昔は伊勢本街道だった三疋田の道沿いに小さなお堂があり、西山のお寺にもいぼ神田の道沿いに小さなお堂があります。歯痛の神さんは江戸時代、歯専門の医者は殆んどいませんでした。相可と平谷に医者がおり波多瀬には野呂元丈が医者を継いだ積善堂がありました。丹生八景の漢詩を詠んだ長谷川三慶も医者でした。しかし医者がいない村も多かったです。歯に限らず、目、足痛、イボ、そのほか怪我や病気になつて、お金のかかる医者にかかるのは一部の人だけでした。庶民は身近にある野草や作物などで病気を治すしかありません。それは神頼み。お地蔵さまや呪いにたよりました。

兄国(えくに)の黒田山(くろたやま)の裾(すそ)にはいぼ神さんと呼ぶ自然石の地蔵があり、西山のお寺にもいぼ神がいます。歯痛の神さんは相可のお寺に。上出江には歯痛に効く大きな石があるそうです。片野の道端には腹痛に相可のあ寺に。上出江には歯痛に効くという石があります。鍬(くわ)形の仏足石は足の神さん。乳(う)母(ば)咳嗽(ひやくにちぜき)の時は相可のあんばさん。下出江(しもいりえ)はちちんばさんと呼びます。お堂に穴あき石が供えてあるのは目や耳の病気でお祈りしたものです。お寺に在つても、仏像でも「神さん」と呼ぶことが多いのも面白いですね。

資格などなく、誰でも医者になれる江戸時代でしたが、野呂元丈や本居宣長のように京都で勉強し、故郷で開業する人が多かったようです。

仁王さん

丹生の神宮寺は弘法大師空海
の師の勤操大徳が開き、空海が
整備したと伝えられる。女性も
参詣できる女人高野、お大師さ
んと親しまれてきた。



丹生の神宮寺はお大師さん
と呼ばれ親しまれています。
お大師さんとは弘法大師空海
のこと。空海ゆかりのお寺な
のでこう呼ばれてています。

神宮は日本の神様をまつる
神社のこと。「神宮寺」って
不思議なお寺の名ですね。

日本には昔からの神への信
仰こうがありましたが、インドから
伝わった仏教ぶつきょうは早くから人々
の間に広まりました。

やがて神社に付属して寺が建てられるなど、両方を合わせた神仏習合という考えが生まれ、僧侶が神社の仕事を執り行うこともありました。神宮寺と丹生神社も隣り合い地続きになっています。

でなく、溜池の造成技術や鉱山技術など様々な技術、文化を身につけ帰りました。空海が高野山を開いたのはそこに水銀鉱脈があることを知つてからではないかとも言われ、丹生との縁も水銀があつたからだとも言われています。

水銀がこれなくなつてからも、丹生は女人高野、神宮寺の門前町として栄えました。

享保元年に再建された12メートルの高さの山門は、平成29年修復がはじまりました。外を眺め一方は阿と呼び、一方は吽と食いしばる仁王像と境内を見守る多聞天と持国天の計四体も同時に修復されます。3メートルもの巨体、どれも元は鮮やかな色彩だったそうです。

江戸時代盛んになつた伊勢参宮には約60年に一度のおかげ参りや抜け参りがあつた。道中、食べ物や草鞋の施行(施し)があり、突然思い立つても無錢で参宮ができた。

草鞋の施行は
わらじのせぎょう

相可の宿では
あうかのやどでは

抜けまいり
ぬけまいり



江戸時代の人々は自由に旅をすることはできませんでしたが、神社やお寺への参詣や病気を治すために温泉へ行く湯治だけは比較的簡単に許してもらいました。御師と呼ばれる神官たちが全国を廻り伊勢参宮に誘がいましたが、「伊勢に七度熊野に三度」という言葉があるほど、誰もが一生に一度はと夢見る旅でした。

村々には方法は様々ですが積立てをして、何人かが参宮できるという伊勢講と参宮できるという伊勢講という集まりがありました。

自分の足だけがたよりの旅は日にちも費用もかかりましたが、伊勢神宮のお札

が突然、空から降つて来て
我も我もと伊勢参宮にむか
うあかげ参り、そして子ど
もや奉公人が無断で旅立つ
抜け参りと呼ばれる現象が
起ることもあつたのです。
道中各地で柄杓を差し出
せば食べ物、草鞋、お金な
どを施してくれる施行があり、およそ60年ごとにあ
こつたあかげ参りには、大
勢の人が伊勢を目指し、一
日何万人という人が街道を
通つたということです。

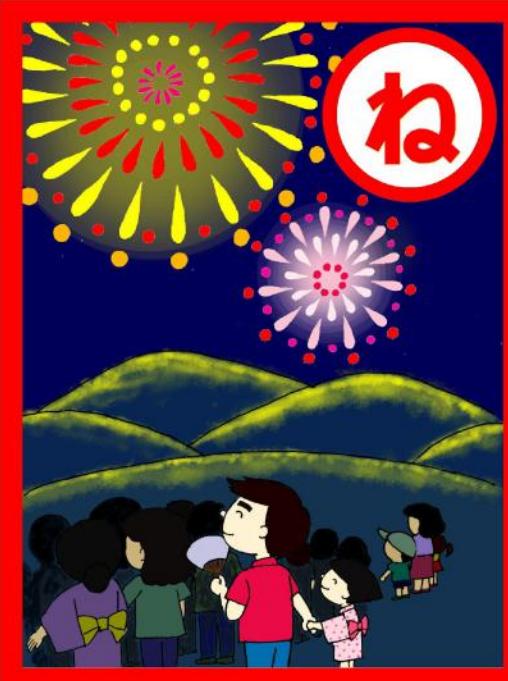
「みんなのはなび」から

るまつりです。

名づけられた「みなび」ま
つりはゆとりの丘で平成25
年から行われています。

平成18年の合併までゆと
りの丘では夏まつりが行わ
れています。

5回目の今年(平成29年)
は11月5日に行われました。
今まで真夏に行われていま
したが気候の安定する秋に
変更されたのです。



願いこめ

夜空にひらく

みなびのまつり

朝柄のゆとりの丘で二〇一三

年から始まった花火大会。皆で
花火から「みなびまつり」と名づ
けられた。8月開催

ゆとりの丘は五箇瀬山城
跡やふるさと交流館、ささ
ゆり苑を含む広々とした芝
生広場のある丘。ふるさと
交流館には図書館と郷土資
料館があります。

ここで何か新しいお祭り
をしたいと多気町商工会青
年部の人たちがたちあげた
のがこのお祭りです。みん
ながあげるはなび。一口五
百円の協賛金でみんなが作
るまつりです。

多気地区でも同時期に町
商工会主催の「あいない祭
り」が町民文化会館前の駐
車場で行われます。たくさ
んの屋台が並び、コスプレ
のお祭り「あたコス」も同

上げられます。

多気地区でも同時期に町

商工会主催の「あいない祭
り」が町民文化会館前の駐

車場で行われます。たくさ

んの屋台が並び、コスプレ

のお祭り「あたコス」も同



のびのびと走ろう
パーキング天啓で
隣りは紅葉の
旧法泉寺

天啓さん(法泉寺)に隣接する
のびのびパーキング天啓は芝生広
場やゲートボール場、遊歩道などがある公園。

相可の南西の端にある法泉寺は天啓さんと呼ばれ親しまれてきました。そこに最初に庵をたてた瑣啓上人に因んで天啓といさんの名がつきましたが天啓と易しい字に書き換えていきます。その後、享保元年、梅嶺和尚がここに黄檗宗の寺院法泉寺を建てたのです。法泉寺の僧には格宗など代々学識に優れた人がいました。江戸時代に中国から伝わったばかりの黄檗宗の僧は新しい中国文化を伝えられる先進者で学僧も多く、可周辺の伊勢商人たちに支えられた法泉寺は南勢の黄檗寺院の拠点となつたので

黄檗寺院ができました。紅葉の名所として知られ、法泉寺の庭園は昭和12年に県の名勝地に、中国風の黄檗型の山門は昭和64年町文化財に指定されています。昭和51年法泉寺は廃寺になりましたが、本堂や鐘楼なりましたが、町が整備して一帯を「天啓公園」としました。天啓は芝生広場やゲートボール場、遊歩道などがある公園ですが、地域福祉センターです。天啓の里やたき児童館、吉田福祉基金會館などがあり福祉の拠点にもなっています。